

筑波エンジニアリング(阿見町)

産業用ロボットシステム



ロボットを使ったシステム提供を手がける筑波エンジニアリング(阿見町、大槻歩社長)は、製造業などの作業工程をロボットで自動化し、省人化を実現している。従業員は進化し続けるロボットの性能や機能に精通しており、顧客の幅広い要望に対応する。大手電気機器メーカー・フ

ロボットの動きをプログラミングする従業員



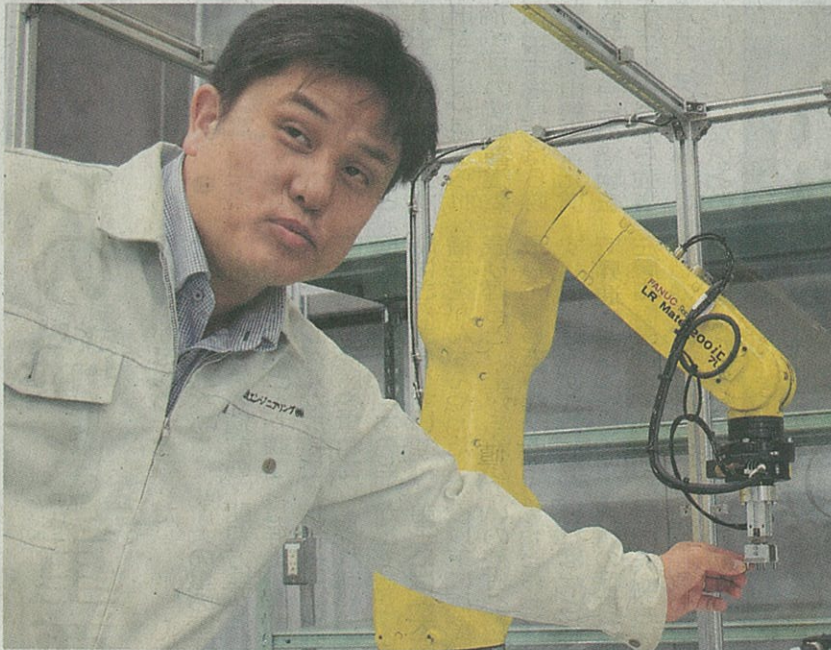
性能に精通 技術で対応

アナック(山梨県忍野村)のロボットを使い、システムの導入提案や設計、組み立てなどに取り組む。設備投資する業者の活用を支援する「ロボットシステムインテグレーション」として、自動化に必要な工程を社内一貫体制で行う。ロボットの利用は搬送や組み立て、検査など多様。人手不足を背景に、筑波エンジニア

■ 企業データ ■

〈創業〉1977年
 〈所在地〉阿見町阿見原
 〈従業員数〉35人
 〈メモ〉今夏に高校生や高等専門学校生らが産業用ロボットの利用方法をプレゼンする「ロボットアイデア甲子園」の県大会を主催する。

リングのシステム受託案件は年間約100件に上る。最近、ロボット活用の評判を聞いた企業からの相談が増えているという。産業用ロボットは、ロボッ



小型ロボットの説明をする大槻歩社長＝阿見町阿見原

トメーカーから購入した時点では半完成品。専用ハンドを付けるほか、ベルトコンベヤーやカメラを組み合わせたリ、周辺設備と同期させたりすることで生産設備となる。同社は金型にあらかじめ金属のネジや端子を入れ、周辺に樹脂を注入して一体化させる「インサート成形」の自動化を得意とする。精度の高さを評価され、関東地方以外からの発注も多いという。システムを本格的に売り出したのは2010年。自動機の製造技術を買われ、ファナックから協力関係を結ぶ提案を受けた。同社の商圏から顧客を紹介されつつ、同年にテレビ業界から転身した大槻社長(50)が営業の先頭に立ち、提案方法を確立した。23年には敷地内に第2工場(延べ床面積1052平方メートル)を造り、大型の生産ラインを丸ごと製造できる体制を整えた。同規模の工場は全国でも数が少ないため、今後は東北から中部地方までの業者の受け皿になることを目指す。機械に不慣れな中小企業の顧客も多いため、システム納入後の継続的なフォローも徹底している。大槻社長は「顧客の頼みに技術で応え、東日本が一番頼られる存在になりたい」と話す。(岡田恭平)

(第2金曜日掲載)